

秋田商コンピュータ部、半年かけ開発 ソフト完成、本県アピール

コンピュータ部の活動の様子



秋田市新屋の秋田商業高校(滝澤徳彦校長)のコンピュータ部員が、本県をPRするタイピング練習ソフト「秋田取り返し合戦」を開発した。主に小中学生向けで、県内各地の名所や名物料理などの単語を速く正確に打ち込んでもらう内容。3年5人が協力し、今年2月から約半年かけて完成させた力作だ。

タイピング練習単語に「竿燈」「じゅんさい」…

小中生向け、ネットで体験



ソフトでは、県内の観光名所や名産品を学びながらタイピング練習ができる

ソフトは、秋田市の主人公「秋田犬志郎」が、全国各地の「エリート犬」に乗っ取られた秋田県を取り戻すため戦うという設定。
県内を9地区に分け、それぞれ画面に表示される特産品などの単語を制限時間内に打ち込んでクリアを目指す。秋田県は「竿燈」、能代山本は「じゅんさい」、大仙北は「天曲の花火」などの単語が出てくる。
難易度の異なる3通りのモードを用意。同校ホームページの生徒作品ページでプレーできる。
ソフトの開発は、部のマスター(部長)の山下桜輔さん(17)が発案した。山下さんはゲーム感覚

で楽しく学べる教材の開発に関心があり、小学校でプログラミング教育が必修化されたことなどをきっかけに、小中学生に向けた学習ソフトを作りたいと考えた。
3年留11人が、システムを作るプログラマー、絵や背景の図を担当するイラストレーター、シナリオの問題点を発見するデバッガーなどの担当に分かれて制作。一般企業から講習を受けるなど、プログラミングを学びながら開発を進めた。
山下さんは「全員モチベーションを保つのが難しかったが、励まし合って一つの目標に向かって取り組むことができた」と話した。
顧問の佐々木一秀教諭(44)は「ソフト開発は生徒たちが自主的に行った活動。学校現場でもタブレットなどが使われる今、小中学生にぜひ体験してもらいたい」と話した。

(白比野桃子)